

## 特集

# 地域活性化の推進 ～観光資源の魅力を極める～

### 【特集の趣旨】

近年、我が国では高齢化、人口減少や産業構造の変化等により、地域の過疎化・衰退が進行しています。一方、各地で魅力ある地域づくりに向けて、地域資源を活用した地域活性化の取組が様々に展開されています。

観光は、交流・関係人口の拡大、雇用機会の増大による地域経済への寄与、国や地域を越えた交流による相互理解の増進といった意義を有しており、地域活性化の重要な柱です。

観光地を中心としたインフラ整備は、観光地を魅力的にし、観光地へのアクセスを向上させるなど、地域の活性化に重要な役割を果たしています。また、インフラは日常の生活や経済活動を支えているだけではなく、それ自体が地域の自然環境や産業と密接に結びつき、固有の観光資源としての魅力を有する財産と言えます。現在、各地でこれらインフラの特性を活かし、魅力ある場づくり、交流拠点の形成や普段触れることのできない施設内部や工事中の風景などを見学する「インフラツーリズム」が実施されています。

今号の特集では、インフラを活用した観光振興について概説するとともに、インフラツーリズムの拡大を図った事例や良好なインフラ整備によって地域活性化につながった事例等について紹介します。

特集担当編集委員　木下 彰裕  
(国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 課長補佐)



先祖供養のためにエイサーを踊りながら集落を練り歩く

伝統的な沖縄の旧盆行事「道ジュニー」

写真：沖縄全島エイサーまつり「道ジュニー」

(今号P15~17「沖縄市らしいバスタへの挑戦～KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち～」より)



## CONTENTS

- |                        |    |
|------------------------|----|
| ・インフラツーリズムの更なる拡大に向けて   | 8  |
| ・長野県松本市におけるTDM施策の取組    | 12 |
| ・沖縄市らしいバスタへの挑戦         | 15 |
| ・三春ダム周辺の環境を活かしたアウトドア構想 | 18 |
| ・旧長崎県営魚の町団地活用プロジェクト    | 21 |
| ・小樽港におけるクルーズ振興         | 24 |
| ・三崎漁港における「海業」の取組       | 27 |